

# No. 1087

## 外遊・組閣・混迷

三ヶ国歴訪の旅を続ける田中首相は、ウィットラム・オーストラリア首相と会談、「日本に対しエネルギー資源供給で可能な限り最大の協力をする」との確約を得ました。11月5日には西オーストラリアの北西部に横たわる鉱物資源の豊庫・ピルバラ地区を視察、鉱脈の長さ500kmにも及ぶ大ハマズレー鉄鉱帯の一角に立ち、聞きしにまさるスケールの大きさに改めて感じ入った様子。「オーストラリアの繁栄なくして日本の発展なく、日本の発展なくしてオーストラリアの発展はない」と強調してオーストラリアをあとにしました。

11月6日、最後の訪問国ビルマに到着した田中首相はネ・ウィン・ビルマ大統領を表敬訪問。翌7日、釈迦の遺髪をまつってあるシエダゴン・パゴダを巡拝、その後、日本人墓地を訪れ、大平洋戦争の戦没者の墓に献花、黙禱をささげました。

12日間におよぶ旅程のすべてを終えて、田中首相は11月8日難題が待ち受ける日本へ。

東京、目白にある田中首相の私邸。11月9日、首相の外遊中、総理代理をつとめた西村国土庁長官や二階堂官房長官が早朝から訪問、国内政局は急テンポで動きはじめました。

党内の主流、反主流の抗争はますます激しさを加え、注目の三木、福田両氏との会談は11日、首相官邸で行なわれました。しかし内閣改造に反対の両氏との会談は決裂、両氏は田中体制への協力を拒否しました。盟友大平氏との深夜の会談、首相は大平、中曽根主流三派で難局打開の構えをみせます。

“金脈問題”の疑惑をはらすため行なわれた記者会見では終始「現在調査中であり、後日あきらかにしたい。文春の記事にあるような違法行為は絶対はない」とくり返します。党内一部の強い反対を押し切って内閣改造にとりくんだ首相は午後6時すぎ一気に全閣僚を決定、しかし大蔵・外務大臣をはじめ、主要閣僚は全員が留任、色あせた改造内閣でスタートです。

首相自身の金脈問題はそのまま持ち越され、また党内の対立は更に激化、混迷の度を増す政局、田中首相の苦悩はまだまだ続きそうです。